



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

# 2014.7

No.363

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



# 海鳥を追いかけて、気がついたら27年！

榎本秀和(鴻巣市)

## ◇ はじめに

海ナシ県に住んでいるからこそ、海鳥が見たくなる。海鳥ウォッチングにはまるのだ。

東京竹芝に生まれ幼少期を過ごした私にとって、海は当たり前身近にあるものだった。水上警察署のおじさんはいつも子供たちの相手になってくれた。海上自衛隊の艦艇が入港したときは、それを絵日記に描いたりした。そして何より、我が家の居間には潮の匂いが満ち満ちていた。

ある日、家の中にウミネコが土足？で上がり込んできたことがある。怖かった！ヘタな犬や猫くらいウミネコはでかいのだ。遠くに見ていた海鳥の、間近にしたときの意外な大きさをそのとき知った。

## ◇ 三宅島航路で海鳥に開眼

20代の終り、私は千葉県銚子にカモメを見に行くようになった。「よくわからない」ところがとにかくおもしろかった。Kさんという(私より)若くて行動力のある人が、日本野鳥の会埼玉県支部(当時)初めての三宅島探鳥会を企画したのはそのころの話だ。

私は彼に誘われサブリーダーとして何回か同行したのだが、三宅島そのものの鳥は一度行けば見尽くしてしまう。実は本当のお楽しみはそのあとだ。帰りの船上(往路は夜行であ



(三宅島・伊豆岬 陸地からの海鳥ウォッチングポイント)

る)からの海鳥ウォッチングに、私はいつもワクワクしていた。まさに、私の海鳥ウォッチング開眼は三宅島航路だった。

それ以来、離島への短距離の渡船は別としても、釧路航路、苫小牧航路、小笠原航路、北方四島クルーズ、トカラ航路など、時間を見つけては海鳥の見られそうな船に幾度も乗った。

三宅島探鳥会のメインリーダーをKさんから引き継いで、2000年の噴火直前まで8年担当したこともある。その間、往きの船が欠航して探鳥会を中止したことが1回、帰りの船が欠航して帰宅が一日遅れたことも1回あった。

船の旅とか離島での探鳥は、常に欠航のリスクと隣り合わせ。乗ろうとした船が欠航となって落胆したことや、離島には渡ったものの帰りの船が来なくて慌てたことなど、私はこれまで何度も経験した。「航海」が「後悔」にならぬよう、船に乗ろうとするならそれなりの覚悟がいる。

## ◇ 海鳥ウォッチングの楽しみ方

陸上の鳥見と違って、船上から海鳥を見るにはある程度の技術と知識が必要となる。動いている船、飛んでいる鳥だから、スコープに入れて「はい、どうぞ」ということはできない。自分に見えていても隣の人には見えていないこともあるし、その逆もあって、鳥を視野に捉え識別できるかどうか、は実力がものを言うのである。

日頃から図鑑を開いて知識を身に付け、出会いのワンチャンスを確実にものにするという思いがなければ、船上探鳥を心から楽しむことはできない。海に目を慣らすというより、海鳥を見る目を作るということなのだ。

## ◇ 八丈島航路でアホウドリ

本年4月、私は3年ぶりに東海汽船の「か

めりあ丸」に乗った。三宅島に渡るのに使っている船だが、竹芝客船ターミナルに行くと「さようなら かめりあ丸」のポスターが…。6月8日発の航海をもって引退するというお知らせだ。もの寂しげな写真をわざと選んだようなポスターを目にして、私はふいに熱いものが込み上げて顔を伏せた。「すとれちあ丸」(2002年引退)のころからこの航路に乗っている私は、自分の人生に重ね合わせながら、時代の移ろいを鋭く肌感じ取ってしまったのだった。

6月からはより大型の新造船「橘丸」が就航する。「橘丸」というのは、東海汽船のかつてのフラッグシップの名称の復活である。

さて、今回の船旅は三宅島で下船しないで、その先の御蔵島を経て終点の八丈島まで行き、とんぼ返りすることになっていた。少し波があつて「条件付き」の出航となったが、たとえばウミツバメ類を Storm Petrel と呼ぶように、やや荒れ気味のほうが海鳥はおもしろい(ベタ風(なぎ)で鳥の出の悪いことを、私は「風倒れ」と称している)。

八丈島から東京へ戻る船上で、私は思いがけなくアホウドリを5回(皿成島1、若島4)も見ることができた。そのうち2回は三宅島と大島の間の海域だ。小笠原航路を含めて、伊豆七島に沿う航路で長年海鳥を見ているが、こんなことは今まで一度もなかった。アホウドリ保護の成果が、目に見える形で表れてきた、ということなのだろうか。

#### ◇ 七つの海を股にかけて

と言つては語弊があるが、私は多くの海を知っている。太平洋、日本海、オホーツク海、東シナ海、南シナ海、黄海、ベーリング海。ヨーロッパのほうではエーゲ海、バルツツ海。海と船と鳥とを語るとしたら、キャプテンハーロックを気取るまでもなく「俺の果てしない憧れさ」ということになるだろう。

また、2010年6月4日は記憶すべき日となった。銚子・外川(とかわ)漁港から出るイルカウォッチング船に乗った私は、初めてアシナガウミツバメを見たのだ。これで私の国内ライフリストに、日本産ウミツバメ類7種全



てを記すことができた。マニアックなお話で恐縮だが、私の秘かな自慢のタネである。

#### ◇ おわりに

我が家は先祖代々「海の民」だという。一族数世帯で鴻巣市に移り住むことになり、海との縁が切れてしまった。

しかし、これは運命だったと言うべきだろう。

埼玉県立の高校で生涯の伴侶となる少女と恋に落ち、また、日本野鳥の会埼玉県支部の草創期の活動に深く関わることができたのだから、埼玉県に住むことになって良かった、と私は思う。

#### 【参考】

(興味を持たれた方は『しらこぼと』掲載の下記拙稿もご覧ください)

1993年4月号 (No.108) 「憧れのバードアイランド三宅島」

1997年3月号 (No.155) 「オオハムとシロエリオオハムの識別」

2000年2月号 (No.190) 「我が家の釧路航路ファイナルクルーズ」

2000年11月号 (No.199) 「カモメ類識別のヒント」

2001年9月号 (No.209) 「オオハムとシロエリオオハムの識別 Part 2」

2003年11月号 (No.235) 「オオハムとシロエリオオハムの識別 Part 3」

2005年12月号 (No.260) 「おがさわら丸航海記」

2007年7月号 (No.279) 「よかったあ〜！、三宅島！！」(共同執筆)

2007年9月号 (No.281) 「50歳、セントポール島遠征記」

# 2014 年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 研究部

日 時：2014 年 4 月 29 日 9:35～11:30  
 場 所：さいたま市 大久保農耕地  
 天 候：曇り

低気圧が対馬海峡に、前線が四国付近にあつて東に進んでいたため、雨の心配もありました。また、連休にもかかわらず 19 名の協力が得られました。ありがとうございました。

観察された種数、個体数は 3 種 13 羽で、昨



年の春と比較すると種数で 5 種、個体数で 223 羽少なくなりました。個体数が少なくなった 1 番の原因は、昨年 211 羽観察されたムナグロが観察されなかったためです。

今年はまだ水の入っていない田が半分以上あり、これから田おこしが始まるような状態でした。農家の人の話によると、4 月の天候不順を回避するために 1 週間ぐらい作業を遅くしたとのことでした。そのため乾いた田が多く、シギ・チドリ類はあまり観察されませんでした。また、春にムナグロが観察されなかったのは 1987 年に調査を開始してから初めてのことでした。

表は春の調査結果のうち、最近の 10 年間でまとめたものです。それ以前の記録は『しらこぼと』2012 年 6 月号 (No.338) をご覧ください。

※タシギ属不明種は、種数に入れませんでした。(文責 石井 智)

## 春のカウント結果 (大久保農耕地)

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
調 査 日	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29
天 候	快晴	曇り	快晴	晴れ	快晴	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	曇り
1 タマシギ									2	
2 コササギ	4	2	6	3	7	4	3	9	11	10
3 ムナグロ	3	444	283	98	337	5	7	45	211	
4 ケリ							1			
5 キョウゾシギ		3								
6 オシロイソウ									1	
7 アオアシギ		2	1							
8 幼ダシギ					4		1		1	
9 キアシギ		1		3						
10 チョウヤクシギ	3	5	6	2	13		8		2	1
11 矢シギ	13	3	8	8	2	1		1	8	2
12 チョウシギ							1			
タシギ属不明種						1				
合 計	23	460	304	114	363	11	21	55	236	13



## 野鳥情報

**さいたま市岩槻区長宮** ◇4月1日、コチドリ2羽、オオジュリン1羽。ハシボソガラス50羽+の群れが飛び回る。群れの中には他のカラス類はいなかった。5月27日、キジ♂1羽、アオサギ1羽、ダイサギ3羽、コチドリ成鳥5羽+、ちょこちょこ歩きまわる幼鳥1羽。地面に座り込んでいるコアジサシ5羽、このうち2羽は嘴をお腹の下に差し入れて卵を動かすような行動をしている(小林みどり)。

**さいたま市見沼区猿花キャンプ場** ◇4月1日、シロハラ♀1羽、落ち葉をひっくり返して食べ物を探す。4月15日、アカハラ1羽、シロハラ5羽+。4月22日、エゾムシクイ、センダイムシクイ、アカハラ、キビタキのさえずりを聞く。4月24日、センダイムシクイのさえずり。キビタキのさえずりを聞き、♂1羽の姿を確認(小林みどり)。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇4月6日、ツミ2羽、低空を飛ぶ。キジ♂1羽。ウグイス、鳴くのがうまいのと、まだ、まるでダメなのといた。カワセミ♂♀、背のブルーが美しかった(本多己秀・久文子)。  
◇4月27日午前7時、駐車場の脇の林でキビタキ♂1羽、静かにさえずっていた。南奥の林でもキビタキ♂1羽。その近くのクヌギで「キーキー、ペチャクチャ」とさえずる声がいっぱい。突然、20羽程のコムクドリが飛び出す。シメ1羽。コジュケイがあちこちで鳴き交わす。偶然、竹藪の奥のコジュケイを見つける。じっくり観察。初めは、道路を挟んだライバルの声が聞こえると「ピョー」と大きな声で鳴き返していた(右上写真)が、その内「チョットコイ、チョットコイ」と鳴き始める。身体をゆすりながら、尾羽をリズムよく上下させ、上を向いて鳴いていた。5月3日、エゾムシクイ、センダイムシクイさえずる。4月27日とほぼ同じ場所でコムクドリ15羽程の群れ(藤原寛治)。



**さいたま市見沼区加田屋** ◇4月9日、2カ所でコジュケイの声。3カ所でキジの声。ホオアカ1羽。嘴峰がまっすぐで上面に赤味が少なく、なんだかシベリアジュリンっぽく見える不明鳥が1羽。加田屋川の州にコチドリ2羽。すでに嘴が黒くなったダイサギ2羽。4月15日、加田屋川でコサギ1羽、イソシギ1羽。4月22日、加田屋川でコチドリ1羽。5月2日、コジュケイの声、キジ4羽、ヒバリ6羽。加田屋川でカルガモ21羽、コガモ7羽、カワウ1羽、バン1羽(小林みどり)。

**さいたま市見沼区染谷** ◇4月9日、ウグイス1羽、さえずる。ここでウグイスのさえずりは、あまり聞かない。シロハラ1羽、弱々しい声でぐずる。アオジ1羽さえずる。4月20日、アカハラ1羽、さえずる。5月2日、黒白洋蘭園付近でキビタキ1羽さえずる。5月20日、コジュケイ1羽+、定番の「チョットコイ」の他、「ピョピョサンダル」の音のような「ピョ、ピョ、ピョ」という声、「コ、コ、コ、コ」というニワトリのような小声等、いろいろな声で鳴いている。近くでさえずるキビタキも、時々「チョットコイ」が混じる。このキビタキは、近くでメジロがさえずりだと「長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛」っぽいフレーズが入ってくる。モノマネが上手というか、流されやすいというか…(小林みどり)。

**さいたま市緑区見沼自然公園** ◇4月9日、ヒドリガモ♂3羽、♀2羽。マガモ♂1羽、♀1羽。コガモ数羽。アオサギ1羽、嘴が婚姻色で真っ赤。オオバン10羽、中に嘴がピンク色になっている個体が3~4羽。これも婚姻色だろう(小林みどり)。

**さいたま市見沼区大和田緑地** ◇4月10日、アオジ1羽、さえずる（小林みどり）。

**さいたま市北区芝川（県道2号線～鷲山橋）**  
◇4月10日、まだ冠羽の短いコサギ1羽、脚にも目先にも婚姻色は出ていない。先月まではこの区間に10羽近くいたバン、今日は成鳥1羽だけ。4月24日、コガモ5羽、カワウ1羽。5月1日、カルガモ5羽、コガモ5羽、バン1羽、カワセミ2羽（小林みどり）。

**さいたま市北区市民の森** ◇4月10日、ツグミ1羽、枝にとまってぐぜる。嘴はほとんど開けない（小林みどり）。

**さいたま市浦和区別所沼** ◇4月14日、かいぼり作業中で干上がった沼底。僅かな水たまりでハシブトガラスが気持ちよさそうに水浴び。10m程先に美しい冠羽がクッキリ見えるコサギ3羽。これ正に囲碁の図（烏鷺の争い）か（陶山和良）。

**JR 武蔵野線 北朝霞駅** ◇4月15日、「ジュリリ…」との声に目線を上げるとイワツバメ、今年初確認。毎年このころに確認できる（井内寛裕）。

**蓮田市西城沼公園周辺** ◇4月16日、3月11日に造巢していたハシボソガラスの巣に1羽がしっかり座っていた。桐の巣と名付けた。スズメが連続12回交尾した。その後、♀が20cmほど移動したが、♂はまだ追いかけていた。4月22日、桐の巣に座っている親鳥に、他の親鳥が餌を運んで来た。雛が1羽首を上げた。6時30分頃～8時30分頃、15羽～20羽のヒヨドリの群れがいくつも北に向かって飛ぶ。渡って行くようだ。センダイムシクイのさえずりを聞いた。アオジが藪でチョロチョロ。4月24日、トビが上空で輪を描いていた。ここでトビは珍しい。ホオジロが電線でさえずっていた。ここで冬を越した個体だろうか。4月25日、コアジサシ4羽、西沼上空を旋回。採餌を試みた。今季ここでの初認。ツバメ3羽が飛び交わしている。今年はこちらに3羽しか渡ってこない。4月28日、ナラ林からタカの声数回。やがて枯れ枝の天辺にツミ♀が現れた。桐の巣、親鳥はもう座っていない。餌

をくわえた親が来たら雛2羽が首を上げた。5月2日午前6時50分、久しぶりにコジュケイが鳴いた。ツグミを確認。これが今季の終認となった。ツバメが2羽、上空を飛ぶ。桐の巣と名付けた3月11日に造巢したハシボソガラスの巣は親が近づくと大きくなった2羽の雛の姿があった。あと数日で巣立つだろう。5月3日、ゲートボール場の側の樹で「チョッチョッチビー」を繰り返す鳥がいた。センダイムシクイだろうか？（長嶋宏之）。

**蓮田市笹山** 4月23日午前10時頃、オオタカ、サシバ、トビ各1羽。とまっていたオオタカが飛び立ち、姿を見失ったので、探していると上空に現れた。写真を撮ろうとしたが、何か様子が違うので双眼鏡で良く見るとサシバだった。春にサシバが見られたのは久しぶり。サシバが飛び去った後にトビも出現した（菊川和男）。

**さいたま市桜区秋ヶ瀬公園こどもの森** ◇4月23日午前5時40分～7時40分、キビタキの姿・声ともによく確認できた。ヤブサメ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、コサメビタキ（たぶん）などの声も聞かれた。サンショウクイ♀が1羽、枝にとまっているのをしっかり見ることができた。マミチャジナイ♂成鳥も1羽確認。ツグミもまだいる（井内寛裕）。

**さいたま市見沼区蓮沼** ◇4月24日、自宅近くの屋敷林で、さえずるキビタキ♂1羽を確認（小林みどり）。

**久喜市久喜菖蒲公園** ◇4月25日、エゾムシクイの声がカシの木の樹冠から聞こえた。昭和沼の浮島にアオサギ15羽十、ゴイサギ43羽十、コサギ70羽十、ダイサギ2羽、チュウサギ5羽、アマサギ2羽、目先に赤味のあるコサギ、青味のあるダイサギ、黄色味のあるチュウサギ、嘴に赤味が増したアオサギもいた。巣材を運んでいるコサギ、座っているアオサギもいた。営巣しているのかも（長嶋宏之）。

**加須市加須はなさき公園** ◇4月25日、今年も昨年に続き、灰皿でシジュウカラが営巣している。♀が来た。灰皿の近くでしばら

く周囲の様子をうかがってから、灰皿の中に入った。約5分後、♂がきた。アオムシのような餌をくわえている。同じく周囲の様子をうかがったのち、中に入ったが、直に出てきて飛び去った。灰皿に「使用禁止」の張り紙と周囲に柵が設けられていた（長嶋宏之）。

**さいたま市岩槻区掛** ◇4月26日、ムナグロ20羽、コチドリ1羽、アオサギ2羽、チュウサギ3羽、ダイサギ2羽、ツバメ、ハクセキレイ。ダイサギの目先がブルーになっていた（本多己秀・久文子）。

**加須市柏戸** ◇4月28日午前10時、水の入った田んぼでムナグロ30羽以上、キアシシギ2羽、ハマシギ1羽、チュウシャクシギ2羽。北川辺の田んぼは田植えが早い。既に水が入り田植えも終わり、シギやチドリが入っていた（吉原俊雄・早苗）。

#### さいたま市桜区大久保農耕地～志木市宗岡

◇5月1日、昨日は遅くまで雨が降り続き…となれば、迷わず田んぼへ。まずは大久保As区、先日の「シギ・チドリ調査」ではさっぱりだったのですが、いましたムナグロ2ヵ所で計62羽、キアシシギ1羽が混ざります。先週8羽が入り、うち1羽がオオタカにやられたらしいチュウシャクシギ2羽。A区土手、砂利の上にはコチドリ2羽。1羽はしゃがみこみ、もう1羽が羽を広げた擬傷のポーズ。早々とその場を離れ、続いて宗岡へ…畔の上にキョウジョシギ1羽！ 大満足で帰路へ（石塚敬二郎）。

**本庄市利根川坂東大橋周辺** ◇5月1日、大雨で川が増水、コアシサシのコロニーは冠水してしまい、コアシサシは右往左往。その中にコシジロアシサシが2羽混じっていた。コアシサシは2週間前に2羽入り、その後どんどん増えて今や30羽位になる。他にイソシギ、ソリハシシギ（森田文三郎）。◇5月6日、アマツバメ、コチドリ、シロチドリ、キアシシギ、イソシギ、コアシサシ、アジサシ、チョウゲンボウ、オオヨシキリのさえぎりなど（小林みどり）。

**さいたま市中央区八王子** ◇5月3日早朝、鳥見に出掛けようと外に出ると自宅そば、



5月28～29日戸隠へ行ってきました。なんと幸運にもこんなモノに遭遇しました。距離は50mくらい、樹上にいたので恐怖感はありませんでした。吾が人生初体験でした。 **松井昭吾(さいたま市)**

わずかばかりの雑木林からこの時季聞き慣れたさえぎりが…綺麗なキビタキ♂1羽！ 秋ヶ瀬行かなくていいかな（石塚敬二郎）。

**行田市利根大堰下流側** ◇5月4日午前8時過ぎ、(普通の)アジサシ2羽が飛び回っていたが、9時前には見られなくなった。下流のほうへ飛び去ったようだ(榎本秀和)。

**さいたま市西区中野林** ◇5月6日午前10時30分頃、特別養護老人ホーム「中野林ゆめの園」裏の田んぼ（田植え済み）でムナグロ10羽（吉原早苗、吉原俊雄）。

#### ～ ごめんなさいコーナー ～

前月号の5ページ表中の新片川を新方川に訂正します。さらに同号7ページ右下の「春日部市武里中野」の4月18日の情報を削除します。昨年情報を誤って掲載してしまいました。お詫びいたします。

#### 表紙の写真

##### ペリカン目サギ科ヨシゴイ属ヨシゴイ

昨年7月18日、越谷市内で撮影しました。**藤掛保司(川越市)**





## 行事案内



オオヨシキリ(プリングマン・ウイリアム)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

**参加費**：未就学児無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

**持ち物**：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

**解散時刻**：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

小雨決行ですが、悪天候や異常高温の場合は中止することもあります。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月6日(日)

集合：午前8時15分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前8時35分、思い出橋駐車場。

交通：東武線新越谷7:21→春日部7:35→南栗橋7:52着、7:53発新栃木行きに乗り換え板倉東洋大前8:09着。またはJR宇都宮線 大宮7:03→栗橋7:38着、東武線7:57発新栃木行きに乗り換え。

解散：午前11:30ころ、谷中湖北ブロック展望塔付近の藤棚。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口(修)、茂木、山田

見どころ：いつもの様にヨシ原浄化ゾーンでコヨシキリ、ヨシゴイ、ササゴイなどを探します。去年は少し足を延ばしオオセッカの声を聞きました。カッコウ、ホトトギスなどにも期待です。暑さ対策はお忘れなく。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月13日(日)

集合：午前8時20分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷8:00発、または寄居7:39発に乗車。

担当：新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：外来植物に押されてアシ原が減少しているせいか、7月の大麻生探鳥会ではなんと4年間オオヨシキリが出ていませ

ん。今年は再会したいですね。できればカッコウとも。去年はホトトギスと蝶たちが楽しませてくれました。

ご注意：今月から9月までは夏時間です。日陰の少ないコースです。飲料水や帽子など、暑熱対策をしっかりとしましょう。

### 滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月19日(土)

集合：午前9時20分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅北口から、立正大学行き9:02発バスで「滑川中学校」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。

費用：参加費以外に入園料410円(子供80円)、65歳以上210円(要：年齢証明できるもの)。

担当：中村(豊)、大坂、岡安、佐久間、鈴木、内藤、藤掛、藤澤、松下

見どころ：この時季は樹林内にガビチョウの賑やかな声が響き渡っています。でもカラ類やエナガ、キツツキの仲間だっけと見つかるはず。大変に蒸し暑い所ですが、ヤマユリやオオムラサキも待っています。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月19日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月20日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東



口、集合後バスで現地へ（注意：担当者は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です）。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。  
後援：さいたま市立浦和博物館  
担当：浅見、青木、赤堀、楠見、小菅、小林(み)、柴野、新部、畠山、増田、若林  
見どころ：三室の野鳥たちも、子育て真っ盛りです。昨年は、ツバメ、セキレイ、ムクドリなどの可愛い幼鳥を、のんびりと観察できました。今年は、どの子が待っていてくれるかな？ カルガモのヒナにも会えるといいな。木陰を選んでの、短めのコースを考えますが、帽子と水筒をお忘れなく。

## 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月27日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:42発、所沢8:39発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、鈴木、高草木、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本

見どころ：7月の入間川は暑い。いつもそんな宣伝をしているせい、元気の参加者のみ。おかげで体調を崩す人はいません。元気な人、いらっしやい。

## ちょっと拝見 野鳥の暮らし ～鳥たちの<恋の季節>～

小林みどり(さいたま市)

恋の季節の始まりは、まだまだ寒い冬のうちから。日照時間が長くなるのが鳥の脳に刺激を与え、“繁殖モード”のスイッチが入ると言われています。1月末から2月にはシジュウカラやウグイス、ホオジロなどが、少し遅れてメジロがさえざり始めます（注：場所によって違いがあります）。仲睦まじそうに行動するムクドリのパアが目立ってきます。カモの仲間もペアが増えますが、まだお相手が見つからないオスたちは一生懸命、メスにディスプレイします。

春も本番になると、恋の季節も本番。南から渡ってきた夏鳥も加わり、山も森も草原も、さえざりでいっぱい。さえざりをしない鳥たちも、それぞれ特徴のある声で鳴いたり（キジ、コジュケイ、カッコウの仲間など）、音をたてたりして（キジやヤマドリのホロ打ち、キツツキ類のドラミングなど）、自分をアピールします。メスや縄張りをめぐって、壮烈な争いもあちこちで勃発。鳥たちにとっては、子孫を残すための命がけの日々ですが、私たちにとってはバードリスニングや行動観察などを満喫できる楽しい季節です。

一方、春から初夏にかけては、“愛の結晶”を育て始めている鳥も出てきます。抱卵、育雛中の鳥はたいへん神経質になりますので、観察には十分ご注意ください！ 人間が与えるストレスで、卵やヒナを放棄してしまうことがよくあります。くちばしに何かくわえたまま、じっとしている鳥に会ったら、その場をそっと離れてください。巣に餌を運ぶ途中かもしれない。大切に育てられたヒナたちは、やがて巣立ちを迎えます。森を歩く時、「ニィニィニィ」という細い声が聞こえたら足を止めてみましょう。親子連れのシジュウカラが、すぐそこまで来ていますよ。

繁殖を終えた鳥たちは、全身の羽が生え換わる<換羽>を迎えます。夏になると鳥が少なくなりますが、暑さと換羽による体力の消耗を少しでも避けるため、安全な場所に身を潜めていることが多くなるから、と思われま。換羽を終え、リフレッシュした鳥たちは、冬に立ち向かいます。厳しい季節を生き抜いたものたちには再び、恋の季節が巡って来ます。

※この記事は、新ハイキングクラブ主催の探鳥会(5月31日大麻生にて開催、本会役員・リーダー4名が指導)で配布した資料に記載されたものを、執筆者本人の許可を得て転載したものです(編集部)。



## 行事報告

1月26日(日) 長瀨町 長瀨

参加: 54名 天気: 晴

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ イソシギ トビ ノスリ カワセミ コゲラ アオゲラ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (36種) (番外: ガビチョウ) 荒川岩畳沿いに上流へ歩く。鳥の姿は少ないがイカルの群れを全員で楽しみ、自然の博物館近くの河原から鉄橋を通過する電車と上空を旋回するノスリが見られた。36種で自分としては満足。(井上幹男)

1月26日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 36名 天気: 晴

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオバン タシギ オオタカ カワセミ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ セッカ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (35種) アシ原で今年少ないオオジュリン。少し遠かったがオオタカの飛翔。進むとベニマシコの声。地味な色の早だったが大人気。上沼では枯れたハスの茎に隠れたカルガモ、マガモ、コガモも見つかり、ツグミが地面で餌をとる姿があちこちで見られた。枯れ草の中にアオジ、カシラダカが出た後、ここでは少ないビンズイが道から木の枝に上がったのを見られた。(玉井正晴)

1月26日(日) 狭山市 入間川

参加: 32名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ

バン オオバン トビ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ イソヒヨドリ スズメ キセキレイ セグロセキレイ ハクセキレイ ビンズイ カワラヒワ ホオジロ カシラダカ アオジ (33種) (番外: ドバト) 神社であいさつをして、当日の説明を終え、入間川に向かう途中でイソヒヨドリ登場。残念ながら一部の人しか見られなかったが、ここでは2011年11月以来2度目の記録。(長谷部謙二)

1月30日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 35名 天気: 曇

ヨシガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ クイナ バン オオバン ノスリ カワセミ アリスイ アカゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (36種) (番外: ドバト) 池とアシ原では、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、ウグイス、オオジュリンなどお馴染みの鳥たち。アリスイとクイナがそれぞれ2カ所で姿を見せ歓声が上がった。芝生ではヒバリやツグミが歩き回り、遠くの森にいたアカゲラをじっくりと観察。西の空にノスリが旋回し、水堀の樹木の中を移動するベニマシコのメスの群れを全員で堪能した。最後は公園名物のヨシガモを観察して締めた。(相原修一)

2月1日(土) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加: 39名 天気: 快晴

コガモ カイツブリ キジバト アオサギ ダイサギ バン オオバン クサシギ トビ ノスリ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ トラツグミ シロハラ ツグミ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (38種) (番外: ガビチョウ、ドバト) 雑木林でコゲラ、エナガ、シジュウカラ、そしてシロハラが枝にとまっていた。道にアオジ、土塁の堀からトラツグミが飛び出したが数人しか

見られなかった。ヤマガラ、イカルが鳴きながら移動していた。シメ、ツグミが地面で餌を探していた。カシラダカが枝にとまり、河原に下りるとタヒバリ。枝にとまったノスリをじっくり見ることができた。橋の上からクサシギが見られた。再び河原に下りるとコガモ、オオバン、バン、カイツブリがいた。カワセミが飛んだが一部の人しか見られなかった。  
(千島康幸)

2月2日(日) 北本市 石戸宿

参加：46名 天気：曇

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ  
キジバト アオサギ ノスリ コゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヒガラ  
シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ アカハラ ツグミ ジョウビタキ  
スズメ セグロセキレイ カワラヒワ シメ  
ホオジロ カシラダカ アオジ (30種) (番外：ガビチョウ) 公園入口の橋の右側にマガモ、カルガモ、コガモ、ジョウビタキ。左側にはキジバト、ヒヨドリ、アオジ、ホオジロ、カシラダカと好調なスタート。木道でツグミ。しかしその後は、ほとんど姿無し。学習館に戻って一休みしていると、後続からアカハラが出たとの連絡。土手の上から湿地対岸の際を歩く姿をジックリ観察。その後も、梢のシメ。河川敷で枝にとまったノスリ。北里の森の道からはカシラダカの群れ。アカハラ、シロハラ、ツグミが何度も出た。  
(吉原俊雄)

2月2日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：54名 天気：曇

オオハクチョウ マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ コサギ クイナ バン  
オオバン セグロカモメ チュウヒ ハイタカ  
オオタカ ノスリ カワセミ アリスイ チョウゲンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス セッカ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ  
スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ  
シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (45種) (番外：ドバト) 出発して早々、芝川沿いでベニマシコのみ早を観察。調節池を望む土

手に上がると池の中心にカンムリカイツブリがいた。しばらく歩くとオオハクチョウ2羽が飛んできて着水！ 思わず歓声があがった。猛禽類も常連組を観察。カモ類は少なめだったが、45種も観察！ 充実した探鳥会となった。  
(須崎 聡)

2月2日(日) 狭山市 智光山公園

参加：24名 天気：曇時々小雨

ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオタカ  
コゲラ アオゲラ ハヤブサ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ  
ミソサザイ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ キセキレイ ハクセキレイ カワラヒワ シメ  
アオジ (32種) (番外：ソウシチョウ、ドバト) 「冬鳥が少ない」という今季、当地も例外ではなかった。ジョウビタキ、ルリビタキが記録されず、ツグミ、シメが幸うじて。そんな中、鉄塔の猛禽2羽で盛り上がった。後姿で逆光気味のため識別にてこずったが、ハヤブサ、オオタカと確認。最後に「赤毛マル見え」のコゲラが出て全員を楽しませてくれた。「冬鳥よ いずこの地にて 過ぎおる 君なき野にも 春は迫りつ」 (石光 章)

2月6日(木) 戸田市 彩湖

参加：21名 天気：晴時々曇

ヨシガモ ヒドリガモ カルガモ ハシビロガモ  
キンクロハジロ カイツブリ カンムリカイツブリ  
ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ  
オオバン ユリカモメ セグロカモメ ノスリ  
コゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス  
ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス  
メジロ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ  
カワラヒワ ベニマシコ シメ  
ホオジロ アオジ (33種+タカ科ハイタカ属不明種1、  
ヒタキ科ツグミ属不明種1) (番外：ドバト) 強風に見舞われたが、対岸へ渡ったら風が少し緩み、シジュウカラやベニマシコなどが現れた。そして、頭上にハヤブサが！ 貯水池機場周辺では、日が陰って、ヨシガモの頭部の色は冴えないが、長く伸びた三列風切の優雅さに、しばし見惚れる。カンムリカイツブリは、夏羽へ換羽中の個体が全体の4割ぐらいで、先月の探鳥会に比べるとずいぶん増えた。最後にノスリが登場。(小林みどり)



●わたらせ未来基金の記念講演会を共催

わたらせ未来基金(事務局:茨城県古河市)の平成 26 年度総会にともなう記念講演会が、6 月 8 日(日)13:30~15:00 古河市地域交流センターはなももプラザで開催されました。

当会の年末講演会でもお話しいただいた唐沢孝一さんが、「学ぼう“都会の鳥の生態”そして調べてみよう“渡良瀬遊水池の野鳥”」とのテーマで講演され、日本野鳥の会栃木・群馬とともに、当会埼玉も共催に名を連ねました。

●ラムサール条約湿地登録 2 周年記念シンポジウム

日時: 7 月 5 日(土)13:30~17:00

会場: 栃木県小山市立文化センター(小山駅西口から徒歩約 10 分)

スペシャルトーク: 「柳生博さんが語る未来の渡良瀬遊水地」柳生博(日本野鳥の会会長)

講演: 「渡良瀬遊水地の生い立ちと役割の変遷」永井勤(宇都宮大学名誉教授)

パネルディスカッション: 「トキ・コウノトリの舞う渡良瀬遊水地に向けて」柳生博、高松健比古ほか

参加費: 無料 定員: 1,000 名 主催: 小山市 共催: 日本野鳥の会栃木ほか

問合せ: 小山市企画財政部渡良瀬遊水地ラムサール推進室 TEL 0285-22-9354

Mail d-ramsar@city.oyama.tochigi.jp

申込み: 6 月 29 日までに、小山市のホームページ→「イベント・観光情報」→「柳生さんと考える・・・(参加者募集)」へ。

当日参加も可。

●ごめんなさいコーナー

前月号本欄「6 月の予定 6 月 22 日(日)役員会」は、「6 月 15 日(日)」の誤りでした。

●会員数は

6 月 1 日現在 1,811 人。

活動と予定

●5 月の活動

5 月 10 日(土) 『しらこぼと』6 月号校正(海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司)。

5 月 18 日(日) 役員会(司会: 青木正俊、各部の報告・埼玉担当の次年度関東ブロック協議会実行委員会設置・日本野鳥の会創立 80 周年記念功労者表彰候補者の推薦・その他)。

5 月 19 日(月) 『野鳥』誌を購読しない会員向け『しらこぼと』6 月号を、郵便局から発送(海老原美夫)。

●7 月の予定

7 月 5 日(土) 研究部・編集部・普及部会。

7 月 12 日(土) 8 月号校正(午後 4 時から)。

7 月 19 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

7 月 20 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

近頃、各社から『日本鳥類目録改定第 7 版』準拠をウリした野鳥図鑑が出版されている。しかし魅力が少ない。高野伸二著『野鳥識別ハンドブック』(1980 年日本野鳥の会発行)のような読む図鑑の出版を期待する。識別でこれを超える図鑑は今だにない。(山部)

しらこぼと 2014 年 7 月号(第 363 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル  
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社